



臨床検査の話②

みなさんはさんむ医療センターに受診した際、「採血」したことはありますか？
今回は採血の疑問・質問をQ&A方式でお答えいたします。

Q. 「なんで何本も採るのですか？血がなくなりませんか？」

A. 血液がなくなってしまふほど採りません。

人間の血液は体重の約1/13(体重1kgあたり70～80mL)あるといわれています。つまり体重50kgの人であれば約3800mLの血液があります。また血液を構成する細胞にも寿命があり毎日体の中で血液は生産されています。比較的寿命が長いとされている赤血球で約120日です。簡単に計算しても毎日約30～40mL位の血液が作られています。検査のために必要な採血量は検査項目により多少の増減がありますが、平均すると10mL程度(小さじ2杯前後)です。



Q. 「なんで何本も採るのですか？1本じゃだめですか？」

A. 検査項目によって調べる成分が違うためです。

血液は、赤血球や白血球などの血球成分、血漿や血清などの液状成分に大きく2つに分けられます。そのどれを調べるかによって血液を固めるのか、固めないのかと大きく分けられます。固める場合には採血管の中に凝固促進剤(血液を早く固めるための試薬)が入っており、固めない場合には抗凝固剤(血液を固めないようにする試薬)が含まれています。

医師が依頼する項目としてよくあるのが、血算(血球計算)、生化学検査がセットになっています。血算は固めると血球がくっついてしまい数を数えることができなくなるので抗凝固剤の入った採血管で採ります。逆に生化学検査では血清を調べるので血球が邪魔になります。凝固促進剤が入った採血管で採り、血球を固めた後に遠心分離することで血球と血清を分けます。

ということで検査する項目が少なければ採血管の本数も減る可能性があり、検査項目が増えれば採血管の本数が増える可能性があります。

Q. 「採血は右腕、左腕どちらがいいですか？」

A. 特に決まりはありません(一部を除く)。

どちらが良い、悪いということはありません。

ただし一部医学的観点から患者様の希望する腕から採血いたします。(採りやすい血管が片方にしかない、乳房切除を行った逆側の腕から採る、皮膚に炎症などがある時はない方の腕など)特に問題がなければ利き腕の逆をお勧めしています。採血は医療行為であり、体に針を刺すため神経損傷等の合併症を引き起こす可能性がごく稀にあるためです。



広報さんむ 11月号「臨床検査の話③」へつづく

☎ さんむ医療センター 検査課 ☎ 0475 (82) 2521 (代表番号)